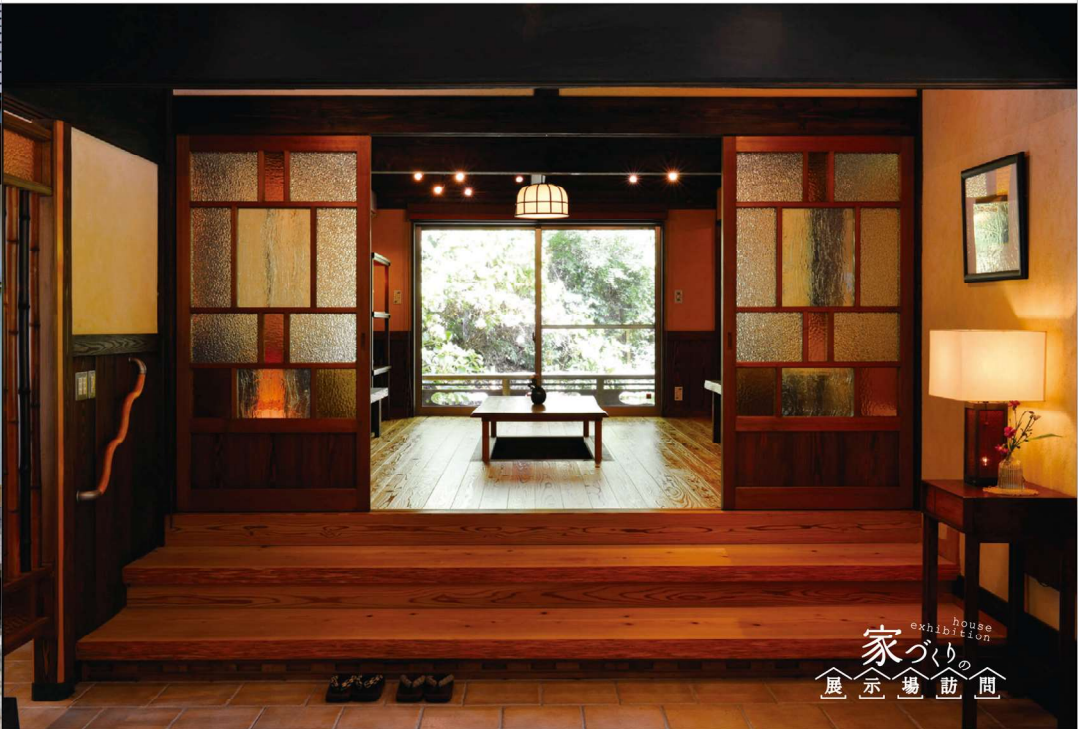




明治初期の古民家をリノベーションした「風のくら」。昔ながらの外観から一転し、中は洋風のエッセンスが織り交ぜられた新スタイルの空間が広がる



house  
exhibition  
家づくりの  
展示場訪問

板の間は小国の杉を使い、表面に凸凹をつけた浮遊り(うずくり)仕上げにしている。デザインガラスの建具がアクセントとなり、空間にデザイン性がプラス

まわり縁のある本格和室の客間。後の手前に格子戸を設け、ちょっとしたゆとりを演出



和室から眺められる玄関まわり。窓が大きくとれた開放的な通りも、古民家の魅力だ

社は、この伝統建築を生かしつつ、最先端の技術と今風のセンスでリノベーションし、新旧十和洋が融合した「現代古民家」へと昇華させた。例えば、藁葺き屋根は断熱性・保湿度性を利用しながら耐久性が強いガルバリウム鋼板にし、室内の壁は色や質感のニオアスが優れた西洋漆喰を使うことで明るい雰囲気にした。また剥き出しの梁や柱のダイナミックさはそのままに、テラコッタ風のタイルやステンドグラスを取り入れ、和と洋の調和を実現。昔ながらの土間も新たなライフスタイルを楽しめる空間へ生まれ変わった。これが「風のくら」の凄みであり、「ハウスランド社」の真骨頂だ。

「ハウスランド社」の展示場  
モデル住宅「風のくら」

## 安穩な「和」× 瀟洒な「洋」 癒しと楽しさが充溢した現代古民家

誰もが家に求めるもの、それは「心のやすらぎ」。  
どっしりとした趣深い外観と、古民家独特の穏やかな空気感。  
そして無垢材の心地良さ、木の香り、モダンな眺え。  
「ハウスランド社」が作る、和洋ミックスの住空間には  
五感で感じるやすらぎと、暮らしの楽しさが充溢していました。

歴史を感じる癒し空間に  
現代技術とモダンさを加味

友人の住居やモデルハウスなど、これまで様々なタイプの家を見てきた人も、やっぱり最後に自分が落ち着くのは「木の温もりに満ちたやすらぎの家」ではないだろうか？ 安堵感があって、優しく、時が経つほどに味わいが増す木造住宅。筑紫野市にある「ハウスランド社」のモデル住宅「風のくら」は、まさにその好例といえるべき建物だ。

そこは築140年ほどの古民家。今や希少な地松が贅沢に使われた古き良き平屋。「ハウスランド

木のいい香りと温もりに包まれ、深呼吸したくなるような安堵感が漂う。夏は涼しく、冬は温かな土間の空間

